

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500194		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム押水(ひまわりユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜えびすが丘59		
自己評価作成日	令和6年11月30日	評価結果市町村受理日	令和7年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所
所在地	石川県白山市みずほ1丁目1番地3
訪問調査日	令和7年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送って頂きます。
 ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します。
 ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します。
 という理念を活かし、その人らしい生活を送ってもらえるように頑張ります。
 利用者さんと 行事を行い楽しいひと時を過ごして頂きます。買い物に行き、好きなものを選んでもらいます。
 ドライブ 中庭での食事 文化祭の展示出品 など 利用者さんと 共に 楽しんでます
 散歩に行き、近所の保育園の園児とお話をしてお互い喜んでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指す指針を示し、利用者個々の事情を汲み、症状や能力に沿いながら生きる意欲を引き出せるよう取り組んでいる。
 ・依然続くコロナ禍にあっても、皆で繰り出す外出は避け個別や少人数で地元名所の砂浜や銀杏並木、コスモス畑等に出かけたり、普段も利用者の自宅付近へ田舎道がいいと言われれば田舎回りにしたり、入浴は本人ペースで土日以外毎日利用される方々もあり、また中庭の枝垂れ桜を興じてのバーベキューや流しそうめん等のイベントも豊富で、誕生日ケーキは和菓子に変更のリクエストにもお応えし、今年度も皆で文化祭向けに作った力作の色花紙ピクチャーや利用者から頂いた雛人形段飾りを飾るなど、少しでも不自由さを感じさせないよう取り組んでいる。
 ・ここ数年の間、職員の業務効率化と負担軽減を目的に、タブレット使用による情報共有や適正管理、事情に応じた勤務体制や時間調整、有給休暇の促進や代表者抜きのグループアプリ等々、今年度は初任給アップや抜擢人事、資格取得に向けた仕組み作りに完全調理品も導入するなど、より働きやすい環境作りに向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	グループホーム押水(ひまわりユニット) 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット会議開始前に全員で唱和する。文化祭に展示したり、個人で食べたいものをスーパーで買いに行く。昔宝くじを購入した、と言われ、家族さんに相談し、面会時に宝くじを持参してくれる。	「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」を理念とし、職員が家族さながらに利用者個々と皆との暮らしが充実するよう、文化祭出品品と一緒に制作したり、外出時に勤務先だった学校にも観に寄ればとても懐かしまれるなど、日々の関わりの中で、理念に立ち返りながらその症状に寄り添う支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地震後、地域の方からタオルの寄付や、断水時、水の提供があったりと、助かりました。隣の畑に栗があり、取って頂きました。保育園まで散歩に行き、子供と話をしたりしました。	元日地震と依然続くコロナ禍で以前のようにはいかないまでも、地区老人会の日舞鑑賞に招かれ乗降や手引きをしてもらったり、日頃も近隣保育園の散歩で園児と話したり、地域の方からタオル寄付を頂くなど、また隣の畑地主には栗取りをさせてもらい、ホーム長も会う度に世間話をしているなど、日常生活の中で地域の方々と身近な交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時隣の畑の人と、話をしたり、栗と一緒にひらい、会話をし、顔を覚えてもらったりしています。畑の人も野菜など皆で食べて。とおすそ分けしてくれます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時家族さんに、重症した場合、病院にも施設にも入れない場合、どうすればよいのか？不安です。との声がある。ホームでは、どこも行く場所がないのに出て行って下さい。とは言いません。医療が必要な場合は、病院との連携をとり、今一番必要な取り組みを考えて、その人に適した今後をホーム・家族・病院との話し合いで決めます。	会議は隔月に、家族代表、町社協会長の区長、自治体・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催し、入居状況や活動内容、ヒヤリハットやあれば事故内容等を報告し、参加者からの意見や感想を頂き運営に活かしている。今年度はマイナンバーカードの取り扱いについての問い合わせを受けている。議事録は全参加者に送付し、玄関にも常置して公開している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時、正月にあった地震の事を話す。避難場所に宝達の郷の利用者が避難したが、役場に避難した方がよかったのかも？今の地震は、押水に避難して良かった。	自治体担当課には運営推進会議にてホームの実情を伝えており、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等々、制度・法令順守に努め、元日地震ではタオルや飲料水の供給の支援を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で、その人の対応の仕方で、気になったことを、その都度見に勉強会を行う。	つい口に出る抑制するような声かけをはじめ、不穏な言動になる方には優しい言葉の声かけや傾聴を心がけ、帰宅願望の強い方には何度も一緒に散歩に出るなど、職員会議で日常に起きた正解のない対策を検討し、本人の思いを優先に拘束しないケアの具現化に取り組んでいる。またここ数年に無断外出があったため施設事故防止の観点で、今は玄関施錠を余儀なくされている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様にその都度勉強会を行う。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解できるスタッフもいるが、すべてのスタッフの理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。入院し退院の見込みがない利用者さんの家族と病院とホームで話し合い、病院が最後まで見てくれる、とのことで退所された。家族は、今後安心して過ごせます。と喜んでいた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの苦情・意見を聞き、家族の思いに沿えるような介護に心がける。退院後の状態説明、今後の対応など、病院・ホーム・家族と話し合いの場を設ける。	家族には、金銭管理報告や衣替え依頼などの電話連絡の際や訪問面会時に利用者の体調や近況を伝え、毎月の請求書には法人代表者や担当職員が撮ったスナップ写真も同封し、退所時には写真集にパネルも差し上げた事もある。地元利用者が多いため来訪者も多く、今はマスク着用で応接室での面会をお願いしている。利用者と墓参りに出かけたり、収穫物や装飾品の差し入れを頂くことも多く、利用者とともに家族との交流を大事にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族・職員からの意見を聞き、話し合いをし、実行している。 休憩の場所を、利用者さんがいない場所にして欲しいなど。	毎月のユニット会議には法人代表者、近隣法人事業所の管理者、元自治体職員の非常勤職員が参加し、代表者がいることで職員からの提案も内容如何では即決で反映される仕組みになっている。今年度も、レクリエーションなど利用者との関りを増やしたい要望に、ドライブや散歩の機会も増やす工夫を協議している。ここ数年で、勤務体制や労働時間の調整、業務IT化・ペーパーレス化、有給休暇の活用奨励とともに代表者抜きのグループアプリの開設、初任給アップや資格取得に向けた仕組み作りに完全調理品の導入など、職員の負担軽減や業務効率化を目的に、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じシフトや労働時間の調整等を行い誰もが働ける環境作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の「認知症に学び、皆で考える。」の勉強会を行う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。入所間もない利用者さんには、昔の話をして、ニコニコ話を始めたら、もう少し話を突っ込む。自営で奥さんと左官をしていた。と教えてくれて、奥さんの話をしたら機嫌がよくなる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。入居前や介護計画更新時に、家族さんにヒヤリングシートを渡し、どの様に過ごしてもらいたいかを書いてもらったり、お聴きしている。入居もない時には、家族さんから利用者の面会をしたいが、帰りたい。と不穏にならないか？どうすればよいですか？と心配されるので、いつでも会いに来てください。もし不穏になったら、その時考えましょう。と言うと、安心された。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がしばらく休んだ後、仕事に行くと「あれ、あんた、しばらく見んかったねー。」と言ってくれる。認知が進んだ利用者さんですが、一緒に過ごしている家族と誤っていただいているのか、うれしいです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	11(7)の様に本人が好きなものがいつでも提供出来るようにしたい。 宝くじを購入したい、当たったら、なんでも買ってやるぞ。と昔を思い出す。家族が宝くじを購入し、もってくる。家族は、昔いつも宝くじを購入していた。と懐かしがる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中々外に出れないが、美容院、墓参り、近所の友達が面会に来てくれる。 美容師さんが、散髪してくれる利用者さんは、30年のお付き合いの利用者さんで、この人のことは何でも知っている。任せて。といつも快く散髪してくれます。	行きつけ美容院へ事前予約して家族に連れ添ってもらったり、家族と墓参りに行ったり、友人がよく面会に来てくれたり、よく行っていた千里浜へは気晴らしに出向いたり、今年度の地区老人会の日舞鑑賞では、一緒に仕事をしていた方との再会もあったなど、できる馴染みの支援に取り組んでいる。日本中を旅された方がテレビの旅行番組でここにも行ったことがあると懐かしまれ話題になる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操を始めると、「あんたも一緒にせんか。」と気にかけてくれて、一緒に体操をしてくれます。不穏になる利用者さんがいたら、隣で手を握って、背中をさすってくれたり、それぞれの役目があるのでしょうか。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも好きな時に珈琲を飲みたいとのこと、自室にスティックタイプのコーヒーがあり、いつでものんでいる。 いつでも飽が舐めたい利用者さん。家族にも見放された。と鬱傾向になることもあり、家族に面会をしてもらい。飽を持参して、話もできるような環境づくりをする。	いつも新聞を読んでいる方は政治に関心が深く、のんびりした田舎道がいいと言われる方にはあえて車を田舎回りにし、孫のことが気になる時は一緒に外に探しに出たり、夫婦間やお金の話で皆で笑い合ったり、なかなか話さない方にはしりとりゲームに参加してもらうなど、共同生活の中にあっても、利用者個々の思いや気持ちの把握に努め、日々の暮らしが充実するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。「独り言」シート作成時回想を取り入れ、利用者さんに聞き作成しいろいろ分かる。 「ホームでの一日」シートも作成し、今の現状を分かるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分でノートに、薬を飲んだか？目薬をさしたか？記入して行動の把握をしている利用者さんがいます。忘れてノートに記入したことを見返し、不穏になることもあります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを基に毎月会議で話す。散歩が好きな利用者さんですが、コロナで散歩する機会が減り、下肢筋力低下し、いつもの半分も散歩出来ない状態の利用者さんに、隣ユニットにいる知り合いに会いに行くのを目的に、ホーム内で散歩をしてもらう。	毎月のユニット会議の全利用者のモニタリング結果を基に、ケアマネまたは計画作成担当者が本人やヒヤリングシートに書かれた家族の気持ちも反映させ、基本1年毎に更新作成をし、訪問時や郵送にて承諾を頂き、入院等があれば随時見直し更新をしている。下肢筋力の低下抑制に屋外散歩を目標にして、隣のユニットまでの屋内歩行を繰り返し、屋外散歩までつなげるなど、今の状態が少しでも長く続くよう健康維持を主体にした目標設定とケア方針を計画化している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。 バイタルは、状態が悪いと、何度も測定する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。家族さんの、思いなど、意見を聞き、その都度対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いらなくなった洋服を、利用者さんが自分で選び、来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人希望のかかりつけ医を継続できるよう支援している。入院中の利用者さんの状態把握。退院時、病院・家族・ホーム3者の話し合いをし、今後利用者さんが安心できる体制づくり。	受診は、毎月訪問診療のホーム提携医のほか、入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療もあり、通院や外来受診は基本家族付き添いだが、事情によっては職員が連れ添い、精神科には職員も同行し本人の日常を伝える場合もある。看護師職員が普段から全利用者の健康管理に努め、提携薬局からも薬剤効果の助言を頂き、普段も生活記録や三則表のIT管理で、受診時に患部映像やグラフ化データの提示など、医療支援の向上が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースが来たときは、薬情報や採血の結果をみてもらう。(ナースより、非常勤なのでいつも来れないので、把握しづらい)との声がある。便秘の利用者さんが多く、(自分で排便する人)把握できないので、ナースが来たときは必ず聴診器でおなかの調子を見てもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応及び看取りの指針に基づき事業所の対応方針を家族に説明している。かかりつけ医と、その都度相談している。	契約時に、医療的看護を要せず希望があれば看取りケアを実施するホーム方針を説明しており、毎月のモニタリングや食事が取りづらくなるなどの重度化傾向が見られれば、早い段階で家族に診察をお願いし、診断結果に応じて改めてホームでできる支援や提携医療機関、特養施設を紹介し、悪化しても本人・家族が不安なく進めるよう図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に緊急時の対応の勉強会の依頼をしている。(12月16日と12月19日)		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	窒息しかかった利用者さんがいて、緊急救命講習する。消防署に、その時一緒に、窒息時の対応のお願いもしました。	行方不明も含む症例別の対応マニュアルを備え、今年度は、近隣同法人事業所と合同の看護師職員による緊急時対応研修はできなかったものの、消防署員による救急救命講習を予定している。日頃は「ひやりハット」や「安全レポート」提出の徹底を図り、内容如何ではユニット会議で協議し、事故予防や再発防止につなげ、万一の場合も看護師職員から指示・指導を受けられる体制となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。入・退院時の情報交換を密に行う。町の認知症の勉強会の参加に務める。	協力医療機関は提携病院と個人医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ病院の訪問診療があり、重度・終末利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	災害対策には限りがないため、備蓄品の見直し購入をはじめ、消防署員立ち会いや近隣住民参加の避難訓練、相互避難先の近隣保育園との具体的な体制協議等、より強化を図られることを期待したい。
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時ホーム長に連絡する。ホーム長がホームに着き指示する。ホーム長がiPadを持っているので、体調の変化があれば、その都度連絡を取るようになっている。(今まで、職員からテルあり支持していたが、iPadで変化がないかみれる。)	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で、申し送りに万全を期し、緊急時は提携医療機関に連絡や救急通報とし、容体等を伝える電話の仕方や管理者・代表者・家族への連絡手順をフローチャート化している。体調変化が予想される時は、それまで都度ホーム長が電話確認をしていたが、今は自宅でもタブレットから体調確認が可能となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2回行う。災害時の訓練はできていません。	自治体ハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で、日中と夜間、毎回火元も変え、天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施。元日地震では、近隣同法人事業所の利用者を受け入れており、その時の対応や、相互で避難先の近隣保育園までに道路の亀裂や倒木があった場合の対処が、今後の課題となっている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事務所にハザードマップを用意している。	ライフラインリストとともに、パン等の非常食や保存水の備蓄品を職員分も含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品も、持ち出しし易いよう玄関近くの和室に保管している。現在、消費期限が過ぎている備蓄品もあり、改めての購入と見直しをする予定としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先生をしていた利用者さんに、「先生」と言うのと、「やめて、恥ずかしい」と言われる。その人にとっては、恥ずかしいのですね。気を付けます。	日常生活に自信をなくす方には今の残存能力を例えに励ましたり、花好きな方と一緒に花摘みや草むしりをしたり、教師をしていた方に先生と声かけするのは嫌がれるとわかり反省をしたり、時には職員が近所の人や子供のお嫁さんや子供になって話す方もいるなど、その時の症状に寄り添うことに努め、個性を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。現在、民謡踊りをされる方が入居され、その方の歌や踊りで皆と楽しめないかと検討している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分でなんでも表現できる人は、コーヒーのんだり、宝くじを購入したり、買い物に行ったり出来ていると思う。なかなか表現できない人は、その日の表情を読み取り挨拶し、会話ができればそうなら話をしたり、出来そうになれば身体をさすったりしてやわらげる。でも、なかなか難しいです。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり表情を変えない利用者さんがいて、介助後、「いいがんにしてくれるのはありがたいけど」とおこりの表情になる。その後会議で話し合い、職員の都合で介助していないか？自分がされたくないことは誰もされたくない。や、そんな言葉を言うのかと、ビックリした。などの意見がでる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲のない利用者さん、お粥を食べているが、梅干しが欲しい。いつも家で梅干しを作っていたから、たくさんあるので、あんたにもあげるね。と昔を懐かしむ。家族に梅干しを持ってきてもらう。 茶碗洗いをしてくれる利用者さん「こんなことくらい、まかせて」	食事は、チルド・冷凍の完全調理品で、食品の安全性のもと味とともに栄養管理もなされ、刻みやとろみは、別途にセットして提供している。近所や家族からのお裾分けもある。また行事食も豊富で、中庭の枝垂れ桜を興じて寿司定食やバーベキューや流しそうめんをし、誕生日のケーキは和菓子に変更のリクエストにもお応えし、クリスマスのカレーパーティーはとても好評だった。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録している。体が傾く利用者さんに、OS-1を摂取してもらったり、ヤクルトを飲んでももらったりしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理状況で排尿・排便のチェックをしている。落ち着かない利用者さんは一度トイレに座ってもらう。 便秘の利用者さんにナースが聴診器で腸の運動の確認をしてもらう。	排泄はほぼ自立している方が多く、タブレット入力の排泄管理でモニタリングやユニット会議等で適切なパットや紙パンツ、防水シート等の介護用品選定や介助の仕方、誘導タイミングを検討して臨んでいる。また日頃野菜、乳酸菌、牛乳寒天、果物缶の糖分補給のほか、体操、腹圧マッサージ等をして、本来の能力を引き出すとともに、薬局薬剤師に成分や処方を確認するなど、便秘・頻尿や失禁等を軽減させ、正常な生活習慣となるよう取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。牛乳寒天OS1飲んでもらう。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴だが希望があれば、その都度入浴してもらう。	入浴は、土日を除く午前中に週2回以上を目安にご利用頂いており、入居前は毎日入られていた方と感染症予防で清潔保持が必要な方には、平日は毎日入浴して頂いており、また嫌がる方には勧める職員や日を変えてご利用頂いている。入浴剤は数種あり、湯加減や一番風呂等のご要望にもお応えしており、自分専用の洗髪剤を使う方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にテレビを置き、好きな時間テレビを見て過ごしてもらう。100歳の利用者さんが、日中足を伸ばしたい。お昼寝をしたいです。と言われ、そのまま居室で寝て頂いているが、口数の少ない利用者さんなので、もう少し早くきずいてあげれば良かったです。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力して服薬の支援と症状の変化に確認に努めている。便のコントロールが中々出来ず、薬剤師さんと、便秘薬の相談をしている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	学校の先生をしていた利用者さん。校長先生に怒られた、など昔ばなしをしたり、学校で習った歌を歌ったりする。それにつられて皆で合唱する。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コーヒを毎日何杯も飲む利用者さん、自分の飲みたいコーヒをスーパーに行き購入。車でドライブし缶ジュースをのんだり、自分の家の前まで行き、昔を懐かしむ。その時利用者さん同士が近所の人とわかり、2人の共通の人の話で盛り上がる。	感染対策で中断していた福祉ワゴン車をチャーターして皆で外食を兼ね花見や紅葉狩り等に繰り出す企画は、2～3人で行くドライブで復活し、地元名所の千里浜や銀杏並木、コスモス畑等に出かけているが、普段の行先はその方の自宅付近が多く、途中、コンビニでジュースを買って飲んだり、皆のおやつをスーパーで買ってホームで皆と楽しんでいる。現在、誕生月に個別に食べたいものや行きたい所へ行く支援も、暖かくなったら復活させようと思案している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。遠くに住む兄弟の人が、テルしてくれたり、手紙を出したりしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節に合ったレイアウトしている。新入所の利用者さんは、自室がわからず迷うので、ドアに苗字を書いた表札をつける。	リビングから宝達山が一望でき採光良く、除湿・加湿・温度管理に、看護師職員が主となり消毒清掃や窓開け換気もし、スリッパ消毒棚の配備など、依然、感染対策の徹底を図っている。玄関ホールには、今年度も利用者が文化祭向けにパーツごとに作り組み合わせた色花紙ピクチャーや、利用者が孫向けに買った雛人形段飾りをはじめ、家族等から頂いた寄贈品を置き、ユニット出入口の生花の飾り付けは四季が楽しめ、また中庭の土間打ちコンクリートははだれ桜を一層映えさせている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間で 休憩したり、食卓でかたまってゲームをしたり、疲れたら自室へ入ったり、その都度その人にあった事をしています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家ではテレビをずっと見ていた利用者さん、ホームでも、いつでもテレビを見せてあげてください。と言われ、いつでも好きな時にテレビを見てもらう。家では、音声を大音量にしているのでも申し訳ないです。恐縮している。	居室は全室洋室にベッドが備え付けで、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされている。夏祭りイベントで贈呈した犬のぬいぐるみがお気に入りの方、入居前に造られた木人形を飾られている方、隣ユニットに同じ職場だった方がおり往来している方、不眠解消に家族からエアーマットを頂いた方、テレビを見ながら午睡される100歳の方もいる。運動機能に応じて、家族と相談しながら適宜に配置換えをして、安心安全環境を図っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		